

## 第1B分科会 研究課題「教育課程に関する課題」

### 研究主題

信頼される学校づくりに資する「社会に開かれた教育課程」の編成・実施・評価に関すること

～教職員の納得解を生かした学校組織マネジメントと地域連携について～

日向支会 小学校部会

#### 1 主題設定の理由

既存の価値観や技術が次々と刷新されていく今日において、学び続けること（Reskilling・Unlearn）が現代を生き抜く重要な力と言われている。児童が自ら学び取り、情報を地域へ発信し、社会課題を解決しようとする意欲を培う、社会に開かれた教育課程を編成することが急務である。

日向市においては、令和元年より市内すべての小中学校学校運営協議会を設置し、コミュニティ・スクール（以降、CS）に取り組んできた。また、本市はキャリア教育支援センターを設置し、様々な業種の方が学校の教育に参画する仕組みが整っている。

ただし、社会に開かれた教育課程の実現には、課題は残っている。CSへの参加者は管理職が多く、教職員の共通理解に基づく教育課程の編成に大きく寄与しているとは言えない学校もある。また、教育課程の編成が社会や地域の要請を受けた編成が行われているとは言い難い。教職員が主体的に編成に取り組むには、なぜ社会の要請が必要なのかを教職員自身が納得して取り組むことが重要である。

そこで、教頭として、地域との連携や情報の共有を図ることで、教職員が納得して業務を遂行できる環境を整え、社会に開かれた教育課程の実現を目指していきたい。さらに、キャリア発達との関連を考慮した地域の外部講師との連携を進めていきたい。

このように、学校組織のマネジメントと地域との連携、ひいてはキャリア教育を推進することで課題の解決を図っていくために、本主題を設定した。

#### 2 研究のねらい

社会に開かれた教育課程を編成・実施・評価するために、教職員の納得解を生かした学校組織マネジメントとキャリア教育につながる地域連携の在り方を明らかにする。

#### 3 研究の概要と成果

(1) 研究内容1 教職員の納得解を生かす学校組織マネジメントの在り方について

##### ① 心理的安全性の促進

教職員が情報共有するためには風通しの良い職場環境の整備が必要になってくる。その基礎となるのが心理的安全性である。教頭が率先して整備していく必要がある。そこで、校内の見回り・施錠を教職員とのコミュニケーションの機会として捉え、短時間の1 on 1を行った。教職員からの悩みだけでなく、業務の進捗状況などをフィードバックも行った。信頼関係が構築でき、教職員の業務や学級経営等の方針等について理解が深まると、児童の指導に関しても密に連絡を取れるようになり、管理職として児童理解・職員理解を進めることにつながった。

##### ② 情報共有ツールの導入

保護者・地域からの電話連絡や児童の緊急対応（例えば、特別な支援を要する児童が教室から飛び出す等）などは、瞬時の職員間の情報共有が難しく、伝達に時間がかかったり、対応が遅れたりすることがあった。そこで、富高小学校・財光寺小学校・寺迫小学校・日知屋東小学校では、ChartworkやLINEWORKS等のアプリを活用し、教職員間でリアルタイムに情報を送受信できるよ

うにした。これにより、児童の情報や教職員の対応状況を確認することができるようになり、共通理解がより進むようになってきた。またC4thの校内掲示板を活用し、行事反省等に活用した。職員の連絡会の内容も校内掲示板に記録することにより、情報の共有化がさらに進められた。

### ③ CS等における情報共有の工夫

地域の課題を教職員も把握するためには熟議に参加できるように場を設定する必要がある。富高小学校では、夏季休業中に教職員と学校運営協議会委員や区長、児童生徒の安全を監視する見守り隊の方々でしゃべり場と題した熟議を実施した。日知屋東小学校では、教職員と校区内の民生委員・児童委員とで、気になる児童の情報交換会を行った。いずれも児童の地域での安全や行動についての協議を行うことで、地域の課題を把握することもでき、共通認識をもつことができるまでに至った。

また、東郷学園・わかたけ分校・坪谷小学校との合同研修会を行っており、全職員が「知・徳・体・地域」の4グループに分かれて参加した。そのためCSメンバーとも地域の実態や学校に求められていること、地域にお願いしたいことを協議できた。

## (2) 研究内容2 キャリア教育に生かすための地域連携の在り方について

### ① 地域協働コーディネーター等との連携

日向市のほぼすべての中学校区に地域協働コーディネーターが配置されている。地域の外部講師(ボランティア)を募り、学校の授業や行事に適切に配置させている。また、地域の民生委員・児童委員や子ども見守り隊、安全監視員の方との連携をする役割を担っている学校もある。

ただ、外部講師が頻繁に、多数来校する場合は対応が煩雑になることがある。来校

者がじっくりと準備したり、必要に応じて学校の要望に沿って活動したりできるように、日知屋東小学校に「コミュニティ・スクール室(仮称)」を設置した。地域協働コーディネーターの課題解決に向けた思いに賛同したボランティアが、率先して来校できるような環境が整いつつある。

### ② キャリア教育支援センター等の外部機関の活用促進

日向市のキャリア教育支援センターに登録している外部講師「よのなか先生」に、社会に出るために何が必要か、仕事をするこの意義や志について話す機会を設けている。今年度は、各学校で取組を促進し、高学年の総合的な学習の時間を中心とした学習に講師として来校いただいた。

また、宮崎県配置のスクールカウンセラー(以下、SC)も有効活用し、児童が相談をしやすくなるように環境を工夫した。坪谷小学校では、SC特別校時程を設定したり、SCと教師間の連携のために連絡カードや記録簿の活用を図ったりし、活用促進を図った。

## 4 今後の課題

### (1) 成果について

教職員が情報共有ツールの効果を確認することができ、情報交換が促進された。また、CSや地域協働コーディネーターとの連携をこれまで以上に図ることができ、教育課程編成に向けての基礎となった。

### (2) 課題と今後の展望

情報共有ツールを使うと効果的な場面とそうでない場面の使い分け等、改善策を練り上げる必要がある。

今回、教頭会で研究の方向性(基礎研究)を実施できたため、次年度は各学校の特色を生かした取組を推進し、地域により根ざした教育課程の実現に迫りたい。